

トップジンM水和剤

(TOPSIN-M WP)

登録番号 第11573号

種類名 チオファネートメチル水和剤
thiophanate-methyl

性状 淡褐色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 チオファネートメチル 70.0%

P R T R チオファネートメチル(PRTR・1種) 70.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 250g×60袋、500g×20袋

■特長

1. 日本曹達が開発した国産の殺菌剤です。
2. 予防効果、優れた浸透性・浸透移行性により高い治療効果があります。
3. 登録作物および病害の範囲が広く、約90作物、180病害の登録があります。
4. ダブルの作用機構があります(呼吸阻害& MBCの微小管の形成阻害)。
5. 高い残効性と耐雨性があります。

■適用病害名及び使用方法

(2017年6月5日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
みかん	そうか病	30	8ℓ/10a	4～6月	5回以内	8回以内	空中散布
	灰色かび病 そうか病	1,000～1,500				[塗布は3回以内、 散布、空中散布 及び無人ヘリ散布 は合計5回以内]	
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 軸腐病 青かび病 緑かび病	2,000～3,000	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回以内	8回以内	散布
						[塗布は3回以内、 散布は5回以内]	
りんご	黒星病 うどんこ病 黒点病、褐斑病	1,500～2,000	200～700 ℓ/10a	休眠期～ 生育期	6回以内	10回以内 [塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内]	散布
	腐らん病 モニリア病(実腐れ)	1,000～1,500					
	輪紋病 すす点病 すす斑病	1,500					
りんご(苗木) なし(苗木)	白紋羽病	500～1,000	—	植付前	1回	6回以内	10分間 根部浸漬
なし		500～1,000	200～700 ℓ/10a	休眠期	6回以内	11回以内 [塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、 灌注は1回以内、 生育期の散布は 6回以内]	散布
	黒星病 うどんこ病	1,500～2,000					
	腐らん病	1,000					
	輪紋病	1,000～1,500					
	心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1,500					
マルメロ かりん	腐らん病	1,000～1,500				9回以内 [塗布は3回以内] 散布は6回以内]	

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
かき	うどんこ病 炭疽病、落葉病 黒星落葉病 すす点病	1,000～1,500	200～700 ℓ/10a	収穫前日まで	6回以内	10回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は、 1回以内、 生育期の散布は 6回以内〕	散布
	もも						
もも(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前		7回以内 (散布は6回以内)	10分間 根部浸漬
ぶどう	灰色かび病、褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1,500～2,000	200～700 ℓ/10a	収穫45日 前まで	1回	5回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は1回以内〕	散布
	晩腐病、芽枯病	1,000					
	苦腐病	1,000～1,500					
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病	1,500	200～700 ℓ/10a	収穫21日 前まで	3回以内	すももは6回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は3回以内〕 その他の小粒核 果類は6回以内 〔塗布は3回以内、 散布は3回以内〕	散布
	黒星病 黒粒枝枯病	1,000～1,500					
おうとう	灰星病 せん孔病 幼果菌核病			収穫14日 前まで		6回以内 〔塗布は3回以内、 散布は3回以内〕	
びわ	ごま色斑点病	800				7回以内 〔塗布は3回以内、 散布は3回以内、 灌注は1回以内〕	灌注
	灰斑病	1,000					
いちじく	白紋羽病	300～500	—	収穫後 〔7月上旬～ 9月上旬〕	1回		
	株枯病	500	1～10 ℓ/株	収穫前日 まで	6回以内	14回以内 〔塗布は3回以内、 灌注は6回以内、 散布は5回以内〕	散布
	黒かび病	1,000～1,500		収穫7日 前まで	5回以内		
	そうか病	1,500					
黒葉枯病							
キウイフルーツ	果実軟腐病		200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで		8回以内 〔塗布は3回以内、 散布は5回以内〕	
あけび(果実)	うどんこ病	1,000		収穫7日 前まで	3回以内	3回以内	
オリーブ	梢枯病			収穫30日 前まで	2回以内	5回以内 〔塗布は3回以内、 散布は2回以内〕	
水稲	ばか苗病	300～500	—	は種前 〔浸種前 または 浸種後〕	1回	3回以内 〔種子への処理は 1回以内〕	6～24時間 種子浸漬
		30					10分間 種子浸漬

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法	
小麦	雪腐病	2,000～2,500	60～150 ℓ/10a	根雪前	3回以内 [出穂期以降は2回以内]	4回以内 [種子への処理は1回以内、散布および無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内]	散布	
	雪腐大粒菌核病	1,000	25 ℓ/10a					
	赤かび病	250～500		収穫14日前まで				
	うどんこ病	250						
	眼紋病	1,000～1,500						
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	2,000～2,500	60～150 ℓ/10a	根雪前	3回以内 [出穂期以降は1回以内]	3回以内 [種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内]	散布	
	赤かび病	1,000～1,500	収穫30日前まで					
	うどんこ病	2,000						
	眼紋病	1,000						
だいず	紫斑病	種子重量の0.5% 1,000～1,500	—	は種前	1回	4回以内 [種子への処理は1回以内]	粉衣	
		700～1,000	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内			
えだまめ	菌核病	2,000		収穫7日前まで	3回以内	4回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は3回以内]	散布	
らっかせい	褐斑病、黒渋病 灰色かび病	1,500～2,000		収穫7日前まで	4回以内	5回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は4回以内]		
	そうか病、茎腐病	1,500						
あずき	菌核病	700～1,000		収穫14日前まで	4回以内			
	輪紋病、炭疽病	1,000						
いんげんまめ	角斑病、菌核病 苗立枯病	700～1,000		収穫7日前まで	4回以内			
	炭疽病	700～1,500						
えんどうまめ		1,500～2,000						
さやえんどう 実えんどう	褐紋病、褐斑病 灰色かび病	2,000		収穫前日まで	3回以内			4回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は3回以内]
れんこん	褐斑病	1,500						3回以内
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800		収穫7日前まで	5回以内			5回以内
やまのいも (むかご)			収穫45日前まで					
ばれいしょ	菌核病	1,000～1,500	収穫7日前まで		5回以内 [種いもへの処理は1回以内]			

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法	
かんしょ	黒斑病	200～500	—	植付前		1回	20～30分間 種いも又は 苗茎部浸漬	
さといも							20～30分間 種いも浸漬	
にら	白斑葉枯病 乾腐病	1,000	3ℓ/m ²	収穫21日 前まで	1回	2回以内 〔種子への処理は 1回以内、は種後は 1回以内〕	灌 注	
レタス	ビッグベイン病 すそ枯病	1,500	1.5ℓ/m ²	収穫45日 前まで		4回以内 〔種子への処理は 1回以内、灌注は 1回以内、散布は 2回以内〕		
非結球レタス	菌核病 灰色かび病	1,500～ 2,000	100～300 ℓ/10a	収穫7日 前まで		2回以内	3回以内 〔種子への処理は 1回以内、は種後は 2回以内〕	
キャベツ	根朽病	1,000		収穫21日 前まで				
はくさい	菌核病	1,000～ 1,500		収穫3日 前まで				
	白斑病	1,500～ 2,000		収穫7日 前まで				
セルリー	斑点病	1,500		収穫60日 前まで				
せり	葉枯病			収穫14日 前まで				
ブロッコリー カリフラワー	菌核病	2,000						
メロン	つる枯病 陥没病	1,500～ 2,000		3回以内	5回以内 〔種子への処理は 1回以内、塗布は 1回以内、散布は 3回以内〕			散 布
かぼちゃ	白斑病	1,000		収穫前日 まで	6回以内 〔種子への処理は 1回以内、は種後は 5回以内〕			
すいか	炭疽病、菌核病	1,500～ 2,000						
きゅうり	菌核病、黒星病							
うり類 (漬物用)	炭疽病、つる枯病							
	うどんこ病 灰色かび病							
にがうり	炭疽病、斑点病							
トマト ミニトマト	葉かび病、菌核病 灰色かび病							
なす	黒枯病、菌核病 灰色かび病							
アスパラガス	茎枯病、立枯病		1,000	収穫開始 7日前まで	5回以内			
てんさい	褐斑病	2,000～ 3,000	収穫7日 前まで					

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
なたね	菌核病	1,000	100~300 ℓ/10a	収穫21日 前まで 根雪前	3回以内 [開花後は 2回以内]	3回以内 [開花後は 2回以内]	散布
	雪腐菌核病						
食用ゆり	鱗茎さび症	50	—	植付前	1回	1回	球根 瞬間浸漬
ねぎ	小菌核腐敗病	1,000	100~300 ℓ/10a	収穫7日 前まで	3回以内	5回以内 [種子への処理は 1回以内、苗根部 浸漬および苗床 灌注は合計1回 以内、散布および 株元散布は合計 3回以内]	散布
		250	チェーンポット 1冊(30×60cm、 土壌量約5ℓ) 当り1ℓ				定植直前
	20	—	—	—	—		3分間 苗根部浸漬
	200						30分間 苗根部浸漬
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1,000	100~300 ℓ/10a	収穫14日 前まで	3回以内	4回以内 [種子への処理は 1回以内、は種後は 3回以内]	散布
たまねぎ	小菌核病			500~ 1,000			
	灰色腐敗病	500	定植直前	5分間 苗根部浸漬			
らっきょう	乾腐病	1,000	700ml/m ²	収穫7日 前まで	3回以内	3回以内	株元灌注
しょうが	いもち病			2回以内	2回以内	3回以内	4回以内 [種子への処理は 1回以内、は種後は 3回以内]
ピーマン	黒枯病	4,000~ 6,000	100~300 ℓ/10a	収穫前日 まで			
ししとう		10,000					
オクラ	葉すす病	1,500	—	株冷蔵栽培 の株冷蔵前 仮植前			
ズッキーニ	うどんこ病	1,000					
		いちご			300~ 500	仮植時及び 仮植栽培期	4回以内 [種子への処理は 1回以内、は種後は 3回以内]
食用ぎく	褐斑病	1,500	—	収穫28日 前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は 1回以内、は種後は 2回以内]	散布
食用べにばな (花)	炭疽病			収穫14日 前まで			
みつば	菌核病	2,000	100~300 ℓ/10a	収穫14日 前まで、ただし、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は 1回以内、は種後は 2回以内]	散布
みしまさいこ	炭疽病	1,000	—	収穫30日 前まで			

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法	
たらのき	芽枯症	2,000	0.1~0.3 ℓ/m ²	伏せ込み後萌芽前 ただし、収穫21日前まで	1回	3回以内 伏せ込み前は2回以内、伏せ込み後は1回以内	駒木散布	
	そうか病	1,500	200~700 ℓ/10a	伏せ込み前 ただし、収穫60日前まで	2回以内			
茶	炭疽病、白星病 褐色円星病 輪斑病	1,500~2,000	200~400 ℓ/10a	摘採7日前まで	1回	1回		
	黒葉腐病	1,500						
たばこ(苗床)	腰折病	1,000~2,000	2 ℓ/m ²	苗床期	2回以内	2回以内		
	黒根病	1,000						
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1,500~2,000	100~300 ℓ/10a	根雪前	1回	1回	散布	
まめ科牧草		2,000						
花き類・観葉植物	菌核病	1,500						
ばら	うどんこ病 黒星病	1,500~2,000		—	5回以内	5回以内		
シクラメン さくらそう	灰色かび病							
ゆり	葉枯病、茎腐病							
きく	褐斑病							
カーネーション	芽腐病							
けいとう	茎腐病、輪紋病							
ほおずき きんせんか	半身萎凋病							
りんどう	花腐菌核病		1,500					
観賞用 アスパラガス	茎枯病		500~1,000					
べにばな	炭疽病		1,500				2回以内	
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.1%	—	植付前または貯蔵前	1回		球根粉衣	
樹木類 (つつじ類、かし、 じんちょうげ、 さくら、ポプラ、 ぼけ、いぬつげ を除く)	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)	1,000	200~700 ℓ/10a	発病初期	5回以内		散布	
	炭疽病	1,500~2,000						
	褐斑病	1,500						
	つつじ類	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)	1,000					100~300 ℓ/10a

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
さくら	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)	1,000	200~700 ℓ/10a	発病初期	5回以内	5回以内	散布
	幼果菌核病	1,000~1,500					
	炭疽病	1,500~2,000					
かし	紫かび病	1,000					
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)						
じんちょうげ	黒点病	1,500~2,000	100~300 ℓ/10a				
	炭疽病						
ぼけ	褐斑病	1,000	200~700 ℓ/10a				
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)						
ポプラ	マルゾニナ落葉病	1,500~2,000	200~700 ℓ/10a				
	炭疽病						
いぬつげ	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌) 枝枯病	1,000					
桑(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前	1回		10分間 根部浸漬
桑	裏うどんこ病 汚葉病	1,500~2,000	100~300 ℓ/10a	—	3回以内	3回以内	散布
	輪斑病	1,000~1,500					

作物名	適用場所	適用病害名	10アール当たり		使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
			使用量	使用液量				
トマト	温室、ガラス室、ビニールハウス等、密閉できる場所	灰色かび病	100~200g	5ℓ	収穫前日まで	5回以内	6回以内 〔種子への処理は1回以内、は種後は5回以内〕	常温煙霧

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. ボルドー液との混用はさけてください。
3. かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、青かび病、緑かび病、軸腐病、黒斑病、灰色かび病には有効ですが、黒腐病には効果が劣るので黒腐病防除が主体の場合は使用しないでください。また、収穫前3週間以内〔かんきつ（みかんを除く）の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的です。
4. りんごの腐らん病防除に対する使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的とするので、生育期の通年散布としてください。
5. ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
6. いちごの萎黄病防除に使用する場合には次の注意を守ってください。
 - (1) 萎黄病多発地では浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで予防すると有効です。
 - (2) 灌注処理は土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - (3) 萎黄病は、土壌温度の高い時（20℃以上）に発生しやすいので、灌注処理は地温の高い仮植時期に行ってください。
 - (4) 灌注処理の場合、土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もありますが、その後の生育や収量への影響は認められていません。
 - (5) 根部浸漬の場合は、浸漬時間が長く（所定時間以上）なると薬害（活着不良）を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守してください。
7. いちごのうどんこ病防除に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - (1) 株浸漬処理は、株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものです。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意してください。
 - (2) 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかないように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすってください。
 - (3) 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵してください。
 - (4) 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理してください。
8. いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意してください。
 - (1) 1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
 - (2) 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけてください。
9. 水稻の種子消毒に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - (1) 消毒後は水洗せずに浸種または、は種してください。
 - (2) 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさけてください。
 - (3) 種もみと浸漬処理薬液との容量比は1：1以上とし、種もみはサラシ網などの目の粗い袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - (4) 低濃度（300～500倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
 - (5) 本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守ってください。
 - ① 薬剤処理した種もみは少なくとも数時間は放置して、風乾後浸種してください。
 - ② 浸種は停滞水中で行ってください。
 - ③ 浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないでください。ただし液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水してください。
 - (6) 薬剤処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意してください。
10. れんこんに使用する場合は、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
11. 麦の雪腐病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当たり100ℓを標準とします。なお、1回散布の場合はなるべく根雪近くに行くと効果的です。
12. 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
13. チューリップの球根粉衣は植付前または貯蔵前に球根1kgに対し本剤1gを均一に粉衣してください。
14. 大型散布機で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
15. 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果が劣った事例があるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用してください。

16. だいたいの紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3日散布してください。
17. だいたいの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用してください。
18. 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当たり成木では200～300ℓ、苗木では20～30ℓ灌注してください。
19. かんしょ、さといもの種いもは消毒後は水洗せず薬液が乾いてから植付けてください。薬剤処理した種いもは食料、飼料に使用しないでください。
20. アスパラガスの茎枯病防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象としてください。
21. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないでください。
22. ハウス等の常温煙霧用として使用する場合は次の注意を守ってください。
 - (1) 専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - (2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉してください。できれば翌朝までしてください。
23. たばこの親床での処理は、は種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布してください。
24. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
25. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

26. 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
27. 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
28. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
29. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
30. 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
31. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないように注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

-
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
 - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
 - 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
 - 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。